新聞掲載

奄美新聞　R4.12.8

つらい時は「助け求めて」

東城中でがん教育「いのちの授業」

いのちのバトンタッチ受け継ぐ

奄美市住用町の東城小中学校（永井孝典校長、児童生徒28人）はこのほど、中学1年～3年9人を対象に、心と体の健康教室「いのちの授業」を行いました。オンラインで、NPO法人がんサポートかごしまの副理事長でがん患者の、野田真紀子さんが講師を務め、「がん患者としての体験談」や「自分らしく生きること」「命の大切さ」などの講話に、生徒たちは真剣に耳を傾けました。

「がん患者としての体験談」は、生徒からの質問に野田さんが答える形で行われ、がん患者としての心情や、がん患者のサポートでの体験を交えながら、一つ一つの質問に回答しました。

また、がんで亡くなった、上水流政美さんが余命宣告を受けた後、前向きに自分らしく、いろいろなことに挑戦し続けた生涯について講話。上水流さんが最後に行った「いのちの授業」で残した言葉「あなたはあなたのままでいい。そのままで金メダル」や「未来に生きるあなたたちに、いのちをバトンタッチします。かけがえのないあなたらしい人生を楽しんでね。素敵な出会いをありがとう」が伝えられました。

野田さんは「命を大切に自分らしく生きてほしい。大変なことがあっても、周りには助けてくれる人が必ずいる」とし、「助けを求めることの大切さも伝えていきたい」と語りました。

2年担任の中辻未来先生は「今を一生懸命生きることの大切さを強く感じた。また、上水流さんの言葉が心に残り、生徒たちと一緒に日々考えていきたい」と述べました。

林海心さん（3年）は「今までの自分と、これからの自分について考えるきっかけとなった」、内洞敬介さん（2年）は「がんや命の大切さについて学ぶことができた。これからの人生に生かしていきたい」、政柚月さん（同）は「上水流さんからのいのちのバトンタッチを受け継いでいきたい」と話しました。

オンラインの野田さんと記念撮影

自分の胸に手を当て、自分自身に問いかける生徒たち